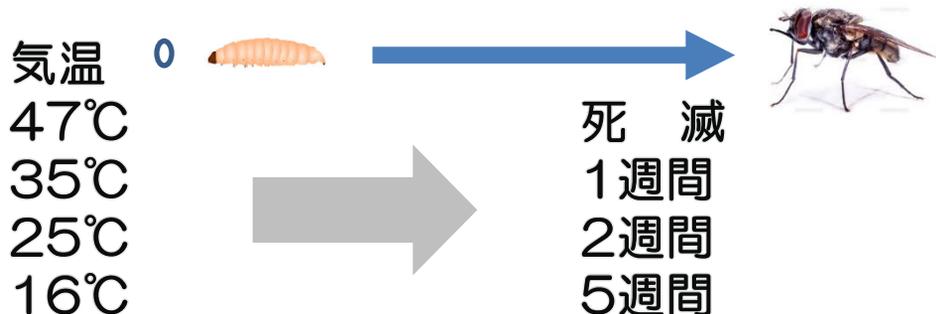


## サシバエ対策は寒いうちから！

牛伝染性リンパ腫やランピースキン病は、主にサシバエ等による機械的伝播により感染が拡大します。サシバエ対策は卵、ウジ、成虫のステージで異なります。

冬季には気温が低くウジの発育が遅いですが、春先には越冬したサナギが一齐にふ化しますので、春までに対策をおきましょう。

### ＜気温と卵～成虫までの発育の違い＞



### サシバエの卵～ウジのステージでの対策

- ①畜舎の隅の糞・残餌・敷料をきれいに取り除き、汚水が溜まる場所（尿溝や雨溝等）を清掃し、越冬するウジが育つ環境を減らしましょう。
- ②ウジは堆肥の発酵熱（65°C）と乾燥で死滅します。しっかり堆肥の切り返しを行いましょう。
- ③シロマジンなどのIGR剤（脱皮阻害剤）は効果が高いですが、堆肥化しても残留することが報告されていますので野菜や牧草へ使用する場合には注意が必要です。
- ④生糞に対し石灰窒素2%の散布もウジには効果的です（生糞1tに石灰窒素20kg袋）。ただし、散布者は使用後、24時間は飲酒を控えて下さい。

別添の農林水産省九州農政局作成の資料もご参考にして下さい

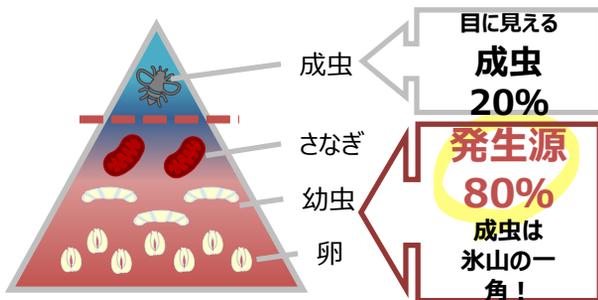
〒629-2302 京都府与謝郡与謝野町字下山田616

京都府丹後家畜保健衛生所 TEL:0772-43-1125 FAX:0772-43-1124

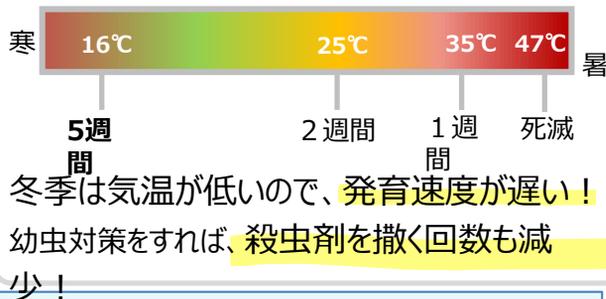
# 春先に向けたサシバエ対策で 牛を病気・ストレスから守りましょう！

はて？ 冬季のサシバエ対策？ 春・秋よりサシバエ見ないけど・・・

成虫がいる = 幼虫はもっと潜んでいる



温度とサシバエが卵から成虫になるまでの  
発育日数の関係



## 九州の冬季サシバエ対策は、寒いうちから！

スタートが遅れると、ハエの数は爆発的に増加します・・・

### 1. 幼虫対策は、堆肥等の管理とIGR剤の散布！



堆肥の切り返しは  
隅々まで！

牛舎隅など牛が踏まない・糞の取り残しがある場所、  
カーペンなど子牛のいる牛床にIGR剤を散布！

つなぎ牛舎は  
バンクリーナーへ散布！

### 2. 成虫対策は、防虫ネットや殺虫剤ローテーションで！



地面や床から2 mは防虫ネットで  
覆えるようにしましょう！  
隙間や穴がないか確認を！

殺虫剤は  
サシバエが飛ぶよ  
り  
上を狙って噴霧！

殺虫剤はローテーションを！  
噴霧量が十分か確認！

### 3. 対策は地域ぐるみで！ 関係業者もご一緒に！

# サシバエ対策、ここをチェック！

1

## 堆肥・敷料・残餌はしっかり管理できている！

- ・切り返し等により堆肥発酵時の中心温度が65度になることを確認
- ・牛床は清潔に保たれ、汚れた敷料や残餌は片付いている

いいえ

## IGR剤を撒き、幼虫対策をしている！

- ・バンスクレーパーが通る前にバークリーナーに散布
- ・牛の踏まない所を中心に散布（特に牛舎隅など）

いいえ

## サシバエ幼虫は、堆肥等の管理 + IGR剤で限りなく減らそう

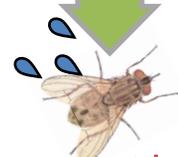
サシバエの成虫 1 匹は、生涯600個もの卵を産む。冬の成虫 1 匹は来シーズンの 1 万匹に相当すると言われるほど、冬季対策が重要。サシバエの活動が低下している冬季だからこそ、地域ぐるみで幼虫対策をしましょう！

すばらしい！

はい

その調子！

はい



子孫残せイ...

2

## 牛舎内でハエ成虫をほぼ見ない

いいえ

## サシバエ成虫を、牛舎内で見かけたら、対策徹底！

サシバエは農場内でも発生するし、他所からも飛んだり運ばれたりしてやってくる。地域ぐるみでの対策が重要。サシバエの持ち出しや持ち込みがないよう農場出入り業者にも車内の殺虫をお願いしましょう。

みんなのお手本！

はい



ココハ住イ〜

## サシバエ成虫対策 3つのポイント

### 1. 殺虫剤はローテーション

同じ殺虫剤を連用していると、生き延びたサシバエが耐性を持つことがある。殺虫剤が効きにくくなる前に、系統が異なる殺虫剤とローテーションで回していこう。十分な濃度・噴霧量で散布しているかも要チェック。

### 2. 防虫ネットの設置

地面から2mの高さまで床から天井に向けて設置。穴が開いてないか定期的にチェック。

### 3. 下草刈りや防草シートの設置

サシバエが日中休息する牛舎周辺の下草を刈ろう。防草シート設置も効果的。